

いるか座



夏の大きな星座をご覧ください。デネブとアルタイルを結んだ線のアルタイル寄り東側にトランプのダイヤのマークのような星の並びがあります（表紙の星図で探してみてください）。これが、いるか座です。

それほど明るい星はありませんが、ひし形の星の並びに4等星を一つつなげた形はとても覚えやすく、また、夏の大きな星座のそばにあることから、一度分かると次からとても見つけやすい星座と言えるでしょう。日本には“菱星”という和名があります。この小さな星座は、2世紀のプトレマイオスの48星座の中にも入っている、歴史の古い星座です。ギリシア神話においては、イルカは海神ポセイドンの使者であり、ポセイドンと妻アンフィトリテの仲をとった功績で星座にあげられたとされています。

ここでは、もう一つのお話を紹介します。コリントスの宮廷音師アリオンは、琴の名手でした。シチリア島で開催された音楽コンクールに参加、見事優勝し、たくさんの優勝金を受け取りました。アリオンが船に乗り、出航した船が沖合いに出たころ、金に目がくらんだ船の乗組員たちがアリオンをおそい、海に投げ込もうとしました。命は助からないだろうと感じたアリオンは琴をかき鳴らして最後の歌を歌いました。いつのまにかその音色や歌声にひかれてイルカたちが船に集まってきました。歌い終わったアリオンは海へ身を投げましたが、イルカたちがアリオンを背中に乗せ、故郷まで送ってくれたのです。イルカはアリオンの命を救った功績により星座にされたとも言われています。

(参考図書：全天星座百科：藤井旭著：河出書房新社 / 星座神話ガイドブック：沼澤茂美、脇屋奈々代：誠文堂新光社)

今月の見どころ星どころ

ペルセウス座流星群

「ペルセウス座流星群」はペルセウス座γ星付近を放射点（輻射点）として毎年出現する流星群です。流星のもととなる物質は「流星物質」と言われ、ちりや小石程の大きさです。地球の重力にとらえられた流星物質は大気突入し、流れ星として輝きます。今年のペルセウス座流星群は、最も活発になる「極大」が8月12日23時ごろです。半月に近い月が22時過ぎに沈みますので、極大時刻ごろは流星を観察しやすくなると思われます。視界が開けていて、街明かりの少ない暗いところほど、流星を見られる確率も上がります。放射点を中心に放射状に流れるため、特定の場所を見続けるのではなく、空全体を見渡した方が見つけやすいです。

浜松市天文台で企画しているペルセウス座流星群観望会は、風場公園（中央区白羽町）で行います。広い風場で寝転がって流星群を楽しみませんか。この観望会は予約不要です。持ち物などは天文台ウェブサイトをご確認ください。



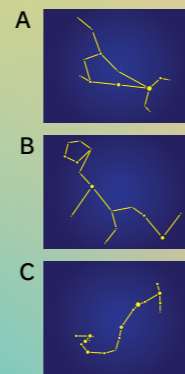
2024年8月13日 午前3時頃
黄色の十字が放射点。放射点が高くなる夜明け前がおすすめです。流星は放射点の周囲だけではなく、放射点を中心として空全体に出現します。画像の流星はイメージです。この通りに出現するわけではありません。

文・浜松市天文台
喜澤 俊輔



星空クイズ

夏の星座の代表であるさそり座。このさそり座は、傲慢なオリオンを殺すために女神ヘラが放ったさそりだというお話が残っています。また、太平洋のポリネシア地方ではマウイの釣り針の話が伝えられています。さそりや釣り針の形になぞらえられるさそり座の星の並びはどれでしょうか。



答えは中面へ

星空案内

浜松市天文台と浜松科学館がお届けする今月の星空情報

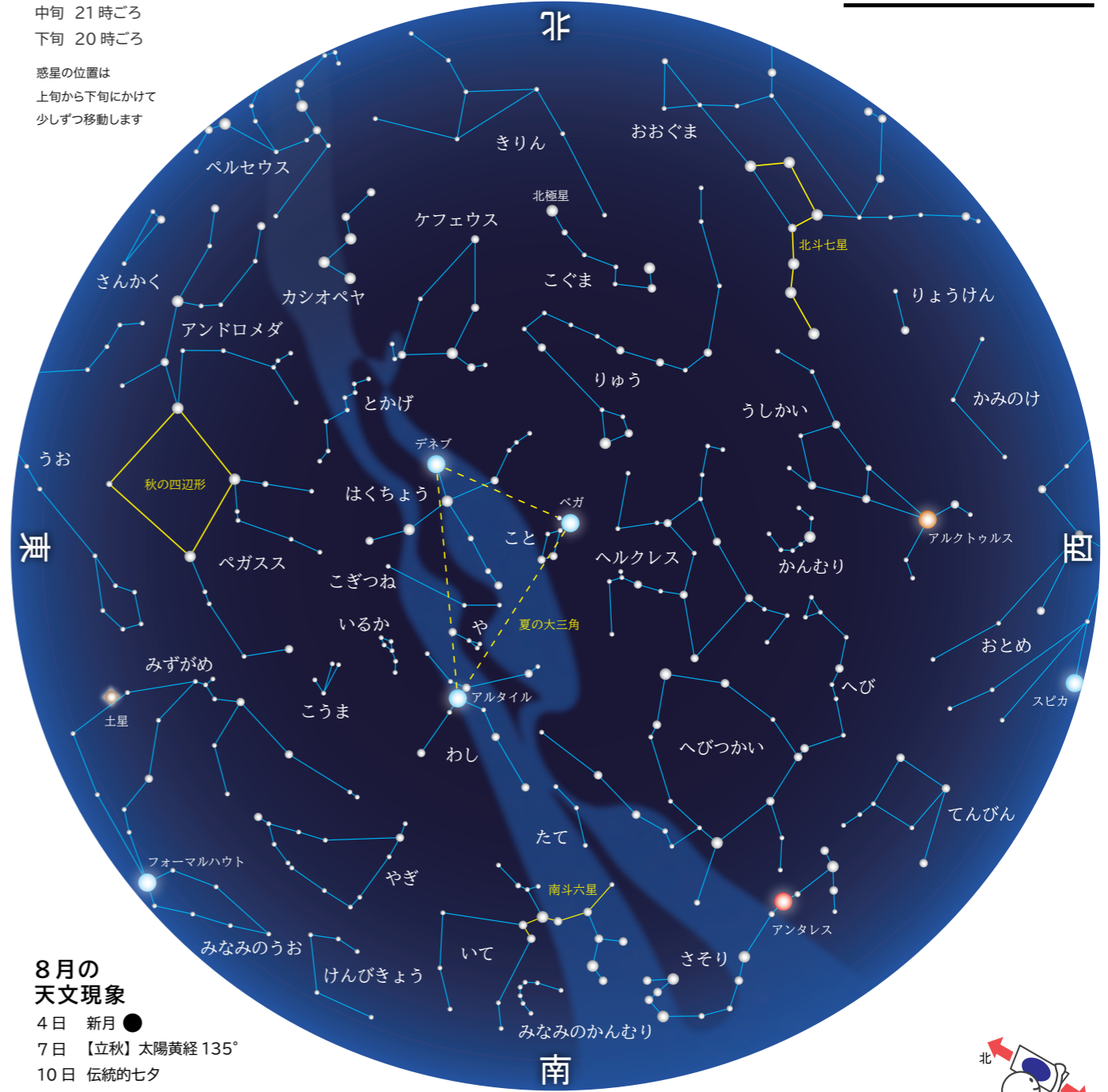
2024年8月

上旬 22時ごろ

中旬 21時ごろ

下旬 20時ごろ

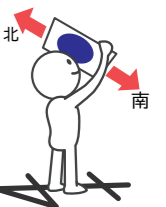
惑星の位置は
上旬から下旬にかけて
少しずつ移動します



8月の天文現象

- 4日 新月 ●
- 7日 【立秋】太陽黄経135°
- 10日 伝統的七夕
- 12日 ペルセウス座流星群極大
- 13日 上弦 ●
- 20日 満月 ●
- 22日 【処暑】太陽黄経150°
- 26日 下弦 ●

上の星図は、空にかざして
実際の方角と合わせてご覧ください。



8月は、夏休み。私は誕生日が8月なので、子供のころ8月が大好きでした。大人になって、いい歳になっても8月は楽しみです。星空が夏の思い出になるのもいいですね。こと座のベガ、わし座のアルタイル、はくちょう座のデネブが作る「夏の大きな三角」が頭の真上付近に見えます。街明かりが少なく夜空が鮮やかな地域では、天の川を見たいですね。はくちょう座が飛んでいる方向をよく見ていただくと、淡い雲のような天の川が南北に横切っています。天の川は、私たちが住む太陽系-地球の所属する星の大集団「銀河」です。





浜松市天文台

OK 天候不良開催 NG 天候不良中止

ウェブサイトはこちら



イベント情報

星空観望会、太陽・昼間の星観望会は予約優先、その他の催しは事前予約制となります。天文台ウェブサイトよりお申込みください。

8/10・17・24・31



星空観望会 宇宙へのとびら in はままつ

季節の星座、星雲・星団、月、惑星などを観望します。

時間 19:30～21:00
会場 天文台屋上
申し込み 開催日3日前の水曜 13時から受付 (30分ごとと先着20組)

8/4 「光の科学」スペクトル講座

分光器を作って「光」を知る講座です。
時間 13:00～14:30 会場 2F 講座室 / 天文台屋上
対象 小学5年生以上 申し込み 7/17(水) 13時から受付 (先着10組)

8/9 ソムリエ観望会 (伝統的七夕)

星空案内のガイドツアー付き観望会です。新人の星のソムリエ®がご案内します。
時間 19:00～21:00 会場 天文台屋上
申し込み 7/31(水) 13時から受付 (1時間ごとと先着9組)

8/16 望遠鏡を作ろう

手作り望遠鏡を製作して月を見よう。
時間 19:00～21:00 会場 2F 講座室 / 天文台屋上 対象 小学生親子
申し込み 8/7(水) 13時から受付 (1時間ごとと先着7組) 材料費 2,200円

8/24 天文ミニ講座

星座と当夜の見どころについて、星のソムリエがやさしくお話しします。
時間 18:30～19:20 会場 2F 講座室
申し込み 8/21(水) 13時から受付(先着10組)

8/31 天文講座「ツーチンシャン・アトラス彗星を見よう」

秋に明るくなるとされているツーチンシャン・アトラス彗星の観察の仕方と、彗星って何?についてお話しする講座です。
時間 15:00～16:30 会場 2F 講座室 対象 中学生以上
申し込み 8/14(水) 13時から受付 (先着15組)

8/1・2 親子天文教室

小学生親子向けの天文教室です。お話と観望がセットになっています。
時間 19:00～20:30 会場 1F ホール / 天文台屋上
対象 小学生親子 申し込み 7/17(水) 13時から受付 (両日とも先着20組)

8/3 スターウィーク 星空観望会

石人の星公園で観望会を行います。
時間 19:30～21:00 会場 石人の星公園
申し込み 予約不要 直接会場へお越しください。
※お車で越しの方は石人の星公園の駐車場をご利用ください。

8/4 太陽・昼間の星観望会

黒点、プロミネンスなど太陽が活動する様子や昼間に見える天体を観望します。
時間 14:00～16:00 会場 天文台屋上
申し込み 7/31(水) 13時から受付 (30分ごとと先着20組)

8/12 ペルセウス座流星群観望会

広い風場でんびりと流星群を楽しみます。
時間 21:00～23:00 会場 風場公園 (遠州灘海浜公園 白羽球技場)
申し込み 予約不要 直接会場へお越しください。
※お車で越しの方は風場公園の駐車場をご利用ください。

8/17 めざせ!望遠鏡マスター

望遠鏡を使って天体を見てみよう!小中学生対象の簡単な取り扱い説明と実習を行います。
時間 18:30～19:30 会場 2F 講座室 対象 小中学生
申し込み 8/14(水) 13時から受付 (先着6人)

8/25 望遠鏡講座 (一般)

望遠鏡に興味がある、購入や活用法を知りたい方のための講座と実技です。望遠鏡の持ち込み可。
時間 19:00～21:00 会場 2F 講座室 / 天文台屋上
申し込み 8/21(水) 13時から受付 (先着5組)

裏面のクイズの答え: 正解は、C (Aはうしかい座、Bはくじら座です。)

9/8 令和6年度 天文講演会 「日本の月・惑星への挑戦 ～月へ、火星へ、その先へ～」

講師: 寺園淳也 氏

合同会社ムーン・アンド・プラネット代表、元 JAXA 広報、惑星科学者、月探査情報ステーション編集長

会場: 五島協働センター 1F ホール
時間: 14:00～15:30
定員: 先着50組 (約100人)

対象: 小学生以上
参加費: 無料
申込み: 7月31日(水) 13:00～
天文台ウェブサイトまたは申込みフォーム二次元コードから



浜松科学館

プラネタリウム番組情報

解説員が星空をライブ解説する「プラネタリウム」と臨場感ある「大型映像」をお楽しみいただけます。

blog



<p>プラネタリウム</p> <p>宇宙へGO! 夢の宇宙旅行 2024 7月9日・9月16日 11:30-12:25 14:30-15:25 今夏の星空観望会と二宮構成です。</p> <p>宇宙へGO! 夢の宇宙旅行 2024 民間宇宙旅行の現状を紹介し、バーチャル宇宙旅行へ出発します! 7/9～ 14:30～15:25 土日祝・夏季 11:30～12:25も放映</p> <p>※夏季: 7月20日～8月31日</p>	<p>大型映像</p> <p>恐竜超世界 巨大な手を持つ「ティノケイルス」と高い知性を持つ「トロオドン」。懸命に生きる2種の親子の物語です。 制作協力: NHK エンタープライズ 映像提供: NHK 制作・配給: D&D ビクターズ 7/20～ 15:50～16:30</p>	<p>キッズプラネタリウム</p> <p>きらきら こんやのおほしさま 今夜空を見上げると、どんな星や星座が見えているかな? みんなでいっしょに星を見よう! 土日祝・長期休暇期間のみ放映 10:30～11:05</p> <p>きらきら☆ こんやのおほしさま 土日祝・夏季 10:30～11:05</p>	<p>大型映像</p> <p>すみっコぐらし ひろい宇宙とオーロラのひかり 原作: サンエックス 制作: pHスタジオ 配給: D&D ビクターズ 土日祝・夏季 13:15～13:55</p> <p>夜の科学館 特別放映</p> <p>怪奇! 地球外生命体の存在に迫る!? プラネタリウムで宇宙人!? の存在について考えます。 ※当日の星空解説と組み合わせた構成です。 8/9 18:20～19:00 19:20～20:00</p>
--	--	---	--

4年に1度の「アツい夏」

column

文・浜松科学館 天文チーム 長嶋理子

今年の夏は4年に1度のスポーツの祭典、オリンピックが開催されます。毎回世界中の人々を熱狂させるオリンピックですが、そもそもどのようにして始まったのでしょうか。オリンピックの起源は、紀元前9世紀(2,800年前)ごろまで遡ります。古代ギリシャでは様々な神をまつる祭事がいくつか行われていましたが、もっとも大きいものが「オリンピア祭典競技」でした。のちに古代オリンピックと呼ばれるものです。このオリンピア祭典競技でまつられている神というのが、星座の話でもおなじみの全能の神ゼウスです。ゼウスとその妻ヘラの神託を聞くことができる神域「オリンピア」で、強い体や意思、そしてエネルギーをゼウスに奉納するために始まったのがスポーツの祭典であり、これがオリンピックの起りだとされています。

今でこそ多くの競技が行われるオリンピックですが、古代オリンピックではゼウスの足裏600歩分(約191m)を走る、1競技のみだったそうです。そこから少しずつ競技が増え、長い時を経て現代のオリンピックになっていきました。さて、今年のオリンピックの開催地はパリです。日本とは7時間の時差がありますから、競技によっては夜更かしをして観戦される方もいらっしゃるのではないのでしょうか。8月に入ると午前1時あたりから東の空に木星が顔を出してきます。ローマ神話ではゼウスはジュピター、木星にあたるということで、オリンピック観戦のおともに星空を見ながら、2,800年前の人々に思いをはせるのはいかがでしょうか。



1915年に描かれた古代オリンピックの想像図
出典: カリフォルニア大学

